授業デザイン

教科・科目：国語・国語総合（現代文）　令和２年１１月２５日（水）

実施学級：１年５組　４０名
実施場所：１年５組教室
単元名　:『夢十夜（第一夜)』(夏目漱石)　全４時間

１　指導目標	象徴表現をより深く理解する。
２　手立て	①『夢十夜』で学習した象徴という技法を用いた文芸作品を自分で実際に創作し、作り手の視点を経験することで、読解能力を向上させる。 ②それぞれが創作した作品をクラスで鑑賞し、象徴表現を読みとる。
３「深い学び」に導くための問い	象徴表現はどのように作りあげられるのだろうか。
	問いのレベル **□Ｉレベル　Ideas　知識、技能の習得** （基本的な事項、基礎的な事実関係、定義、基本的な概念等を確認するような問い） **■Ｃレベル　Connections　既知の知識・概念や他領域とのつながり** （教科の既習内容、他教科の内容、実生活の内容などと、学んだことの関係やつながりを理解させる、あるいはそれらとつなげて説明させるような問い） **■Ｅレベル　Extensions　応用、活用** （学んだことを全く新しい状況に応用させるような問い。答えが一つに定まらない問い。リアリティがあり、他者性を前提とした問い）

４　学習の展開（４／４）時

	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入	●前時の復習をする。 ●本時の目標を確認する。	●『夢十夜』では「百合」が「女」の象徴であり、夏目漱石が作品の全体を通して百合と女の共通点を描写するなど、読者にヒントを散りばめていたことを確認させる。 ●象徴表現を用いて実際に自分自身の作品を創作することを提示する。	
展開	●創作する手順や創作に当たっての条件を確認する。	●スライドに沿って手順を説明する。 ●創作する上で、 ①直喩を用いないこと ②説明しすぎないこと を条件として提示する。	机間巡視（様相観察）

	●概念と事物を決め、作品を創作する。 ●相互鑑賞をする。読み取った象徴表現を付箋に書き、ワークシートに貼る。	●概念と事物を決められない生徒には ①事物を書いたくじ ②事物と概念の両方を書いたくじ ③事物と概念、書き出しを書いたくじ の３種類のくじから本人に選ばせて引かせることで、書き出しの補助とする。 ●時間を測って列ごとに作品を回して鑑賞させる。その際に、読み取った象徴表現を付箋に書かせ、貼らせておく。読み終わった後に、ワークシートの裏を見て、自分の読解が正しかったのか確認させる。	・机間指導（様相観察） ・ワークシート
まとめ	●自己評価をする。自分のワークシートに貼られた付箋から、自分の表現や作品が他者にきちんと伝わるものだったのかを自己評価する。 ●学習のまとめと振り返りをする。	●評価規準を提示する。 A…象徴表現を使って文章を創作することができ、何を象徴しているのかを他者に十分に伝えることができた。 B…象徴表現を使って文章を創作することができ、何を象徴しているのかを他者におおむね伝えることができた。 C…象徴表現を使って文章を創作することができたが、何を象徴しているのかを他者に伝えることができなかった。 D…象徴表現を使って文章を創作することができなかった。 ●今回作品をつくる上で工夫したことや学んだ視点を、今後小説作品を読むうえでも活かすように指導する。	・ワークシート